

六字城

ROKUJIJO

2023/7/1

No.704

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



天満別院崇敬寺院巡り

光明山 超願寺

法要・行事予定

7月		8月	
11日	従如上人御祥月御命日 (8時)	4~5日	暁天講座 (両日ともに6時)
12日	闡如上人御逮夜・常永代経 (14時)	12日	合祀墓追弔会 (9時)
13日	闡如上人御命日 兼日中 (8時)		闡如上人御逮夜・常永代経 (14時)
15日	天満別院合唱団「みのり」 (14時)		墓前申経 (9時から17時まで)
25日	宣如上人御祥月御命日 (8時)	13日	闡如上人御命日 兼日中 (8時)
27日	宗祖聖人御逮夜 兼 定例法話 (13時30分)		証如上人御祥月御命日 (8時)
	野村 正示師 (第13組善福寺)		孟蘭盆会 (13時30分)
	「よろこんで楽に生きる」		由上 義孝師 (第20組施福寺)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中 (8時)		墓前申経 (9時から17時まで)
	法話 輪番 武宮 信勝	27日	宗祖聖人御逮夜 (14時)
		28日	宗祖聖人御命日 兼日中 (8時)
			法話 輪番 武宮 信勝

※ 諸事情により、7月の定例法話は27日に開催します。

おあさじにお参りしましょう!!

毎朝7:45分~8:30頃まで

※土、日は職員による感話があります。一人でも多くのご参詣をと、願ひ続けています。



天満別院では、左記の通り暁天講座を開講致します。

日時 8月4日(金)、5日(土) 両日ともに6時~おつとめ 6時30分

7時30分頃まで法話 講師 天満別院輪番 武宮信勝

講題 「求道者への誕生」

場所 天満別院 同朋会館 講堂

※聴講は無料です。尚、講座終了後には軽食を用意しております。

(ご提供 太田石材店様)

今月の伝道掲示板

生活の現場こそ

「道」

その生涯こそ

「道場」であります

—日野賢之—

編集後記

今月の崇教寺院巡りは門真市、超願寺様の歴史、由来、教化活動を中心に取材をさせていただきました。地域の方々との繋がりを大切にされているがコロナ禍の為、思うように活動ができていないもどかしさをお聞かせいただきました。別院も行事は活動しているが以前の様に人の戻りがありません。地域のコミュニティとして活動できる手立てを考えなくてはなりません。

光明山 超願寺

住職：村上 奈津子
住所：門真市垣内町7番30号

沿革

超願寺の創設年代は明らかではないが、古来願得寺特別縁故の寺として存在し、今はないが、もとの御本尊は阿弥陀仏画像で、証如上人の御裏印があった。証如上人は本願寺第十世、即ち東西両本願寺に別れる前のご門首であり、天分23年(1554年)迄その職にあった人である。又、蓮如上人御真筆の名号を所蔵している。脇壇には40センチの阿弥陀立像の壇像が安置され、善信作の銘がある。これらの点を総合して考えると、蓮如上人が初めて当地に來られ、もとの普賢寺の一角に宿坊を建立したというのは超願寺のことと思われる。

先代の御住職は毎月27日の御講には勤行と法話を行っていた。今は、毎月27日に仏教讃歌が行われている。12月第2土曜日には御内仏報恩講を寺で行っており、法要後には仏教讃歌を披露されている。

現在5代目の住職を引き継いでおられる村上奈津子氏は、天満別院合唱団「みのり」のご指導を頂き、院議会議員にも就任されています。

村上住職は「ご門徒の若い方が役員になられ、法義相続がされている。周り一円がご門徒に囲まれ、幼き頃よりお参りを通してご門徒の声を聞き、繋がりを大切にしています。婦人会の方々が色々な相談に乗ってください、助けていただいています。」と優しい笑顔で語っておられました。

Q&A

家族葬が当り前になりました。以前のようにもどすべきでしょうか？



答え

もどすべきです。なぜなら、弔問を、葬儀の参列を遠慮してもらおうとで失われたものがいくつもあるからです。経済的な事情や様々な背景がある事と思いますが、世間に做う必要はありません。

ひとつは、喪主のあいさつです。弔問して下さった皆様へのお礼の言葉、そこに含まれる亡き人の生き様を発信する機会が失われました。縁深い方が喪主の役を担います。言葉やその響きに亡き人との別れを、出

会い直す場へと転換し続ける大事な最初の機会が喪主の言葉の響きに込められているのではないのでしょうか。

もうひとつは、亡き人の仕事を奪っているということ。亡き人＝仏さまの仕事は、出合いの場をつくることです。親の葬儀で、親の友だちが来てくれても知らないし対応できない、という話を聞きます。子である私の知らない親の話を教えてもらう場でもあるのです。そして、法事もそうですが、喪主が呼びかけて、参列者が来るのではなく、亡き人のはたらきによって、葬儀や法事に人々が集い、語り合う場が生まれるのです。家族葬にして大切なものを見失っているように思います。どうか、仏さまの仕事（人と人が出会う場の創造）を奪わないで下さい。

(第13組 即念寺 洲崎善範)

別院院議会

去る6月9日(金)、天満別院院議会が開催され、左記の通り議案の審議が行われました。

記

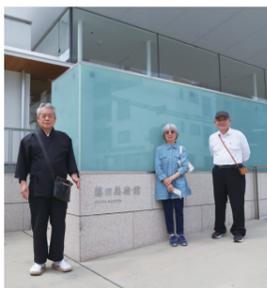
- ・中・長期事業検討委員会「最終報告書」に基づく「天満別院中・長期事業計画」(案)の件について
- ・「中・長期事業計画」に基づく境内地の著しい模様替えの件について
- ・「中・長期事業計画」に基づく財産処分(事業用定期借地契約締結)の件について
- ・「中・長期事業計画」に基づく土地賃貸借契約解除の件について
- 2022年度
 - ・経常部及事業部歳入歳出決算書
 - ・本坊運営資金収支計算書
 - ・災害見舞特別会計収支計算書
 - ・墓地運営資金収支計算書
 - ・退職給与積立金収支計算書
 - ・整備事業積立金収支計算書
 - ・有価証券勘定書収支計算書
 - ・期末現金・預金・有価証券勘定書
 - ・その他 中・長期事業資金管理規定(素案)

以上

全議案、全会一致で可決承認されました。

同朋の会

去る6月5日(月)同朋の会が開かれ別院でお勤め後、藤田美術館に行き親睦を深めることができました。



ご門徒との記念撮影

団体参拝

去る6月6日(火)岡崎教区豊橋別院世話方会の皆様17名が団体参拝に來られました。輪番からの挨拶、そして天満別院の由緒・沿革について職員から説明があり、展示物もご覧いただきました。



参拝に來られた皆さんと記念撮影

夏の御文法要 勤修



17組徳因寺 稲垣 直来 師

去る6月24日(土)「夏の御文法要」が勤まりました。御講師に17組徳因寺 稲垣 直来師をお迎えしました。

今年夏の夏の御文の三・四巻を拝読致しました。その後、講題「今今今たつた今死んでも生き甲斐あったか」を基にお話をいただきました。師は、生きていく上で苦悩などから逃れていくことはできないが、どう生きていくかはつきりさせる(善き人の出会い)ことが大切だと述べられました。最後に「これまでがこれからを決めるのではない。これからがこれまでを決めるのだ。」という藤代聡磨先生のお言葉を紹介され、一日も早くお念佛のみ教えに会いましょうと呼びかけてくださいました。

別院門徒会定期総会

同日法要後、天満別院門徒会定期総会が開催され、左記の通り議案の審議が行われました。

記

- 天満別院門徒会
 - ・2022年度事業・会計報告
 - ・会計監査報告
 - ・2023年度事業計画(案)
 - ・門徒会会則について
 - ・その他

以上

全議案、全会一致で承認されました。

7月 定例法話

定例法話は、多彩な講師陣がわかりやすく真宗のみ教えをお話ししてくれれます。7月の定例法話は左記の通り開催致します。

記

日時	7月27日(木)
午後1時30分	
場所	天満別院 本堂
御講師	第13組 善福寺 野村正示師

輪番雑感

本当の自分

武宮 信勝

昨日、滋賀県在住の寺坊守、Tさんから電話がかかってきました。内容を簡潔に言うと、

「ご法話でよく聞くことですが、本当の自分に目覚めると言われますが、本当の自分ってどういうことでしょうか?また、ある講師さんが自分の中には、普段は気付かないが奥深いところでもう一人の自分がいると言われましたが、関連性があるのでしょうか?」と。私とTさんとは、同朋会館で出会って30年来の法友であり、時々こう言った難問を投げかけてくださる。今は、持病と真向かいになりながら、主治医がおられる北陸の病院を往來しつつの生活が余儀なくされていると聞いています。毎月お寺での同朋会で御門徒とおしゃべりをするのが一番の楽しみとっておられました。

先日(6月24日)、九州教区の伊藤元氏を御講師に迎え、大阪教区主催の第46回「同朋大会」に、別院御門徒さんと共に参加しました。大会テーマは「私たちは何を求めて生きているのだろうか」を

掲げ、「自分の人生が充実し幸せなものであることを願いながら、それどころか死によってすべてが無くなってしまおうと恐れて生きる私がいいます。しかしどう生きることが本当に満足で、安心できるものであるのか、はっきりしないものがあります。…略…」と、大会主旨の朗読があった。

さて、「本当の自分」ということですが、先ずごまかしのない身の事実に頷くことが大事なことでないかと思えます。人は誰しもが幸せになることを求めて生きています。伊藤先生のお話にもありました。この世はシャーパー(娑婆=堪忍土)です。幸せになりたくないと願いつつも、一人残らず必ず老・病・死に捕まります。苦の存在としての身の事実は無有代者であります。誠に嘆き悲しい我が身です。だからこそ五功思惟してくださって阿弥陀仏さまが、この我を救おうとされてお浄土を建立されたのでしょうか。そのお浄土に私も生まれたいと願う心が起る(願生心)自分が「本当の自分」なのでしよう。法蔵魂が揺さぶられる自分、まさしく真の念仏者誕生がもう一人の自分。有難くもTさんと電話先で話し合った一コマでした。